

## 平和学習

長崎に原爆が投下されてからちょうど 80 年目の日となる 8 月 9 日（土）に平和学習を実施しました。今年度の平和学習の主な内容は担当からの解説講話の後、NHK アーカイブより「“焼き場に立つ少年”をさがして」（2019 年）と題した映像を視聴しました。映像では、原爆投下後の長崎を訪れた米軍カメラマンが撮影した 1 枚の写真が、近年ローマ教皇によって取り上げられたことで世界から注目を集めることとなり、写真を多角的に解析し、少年が生きたはずの戦後の日々について掘り下げています。生徒は戦争の悲惨さや平和の尊さについて理解を深めるとともに、その後、感想をまとめ、「私の平和宣言」と題した平和へのメッセージを作成して、原爆投下時刻の 11 時 2 分に、黙祷を捧げました。

以下の文章は、生徒の感想の一部です。

- \*被爆してからどれだけ長い時間が経っても傷が癒えることはないことを改めて再確認しました。戦時中を生き抜いて、辛い記憶を思い返して次世代に伝えてくださるご高齢の方々に感謝し、私も後世に語り継いで行きたいと思いました。（1 年女子）
- \*戦争の悲惨さという誰もが望まない辛い現実を、私より年少の子どもがそれを受け入れて生き、家族を失った生活を強いられる非情な現実が長崎であったことに衝撃を受けました。現在を生きる私たちが戦争の悲惨さや平和の大切さを後世に伝え続けなければならぬと感じました。（1 年男子）
- \*焼き場に立つ少年はあの時何を思っていたのか、どんな気持ちであの場に立っていたのかと考えるととても胸が痛みます。また、被爆者があの頃のことを語ると自然に涙がこぼれており、被爆者にとっては、とても辛い経験であり、それでもなお、強く生きてこられたことを感じ取ることができました。（2 年男子）
- \*少年はまだ小さいのに、親兄弟を亡くして一人で生きて苦勞している様子を感じ取ることができました。今の私に自分の住む家があって、家族がいて、衣食に困らず普通の生活ができるのは、実はとても幸せなことなのだなと思いました。これからも平和な日本であって欲しいです。（2 年女子）
- \*これまで鑑賞してきた原爆に関する映像は、大人の被爆者の方の話が多かったのですが、今回は今の私たちよりずっと小さい子どもが生きていた姿にまつわる話だったので一番心に残る内容でした。戦争を経験した人や被爆者はもう高齢者で、人数も少なくなっているからこそ、今の小さな子どもたちにたくさん話をきかせて、戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えて欲しいと思いました。（3 年女子）
- \*生き残った方たちの話をきいて、親をなくした子どもたちが、引取先でも冷たい仕打ちを受けたり、原爆後遺症や残った傷で差別を受けるなど、子どもたちだけで生きていくことがどれほど辛いことかを知らされました。（3 年女子）

